

平成18年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○プロジェクトとしての必要性は高いと考える。しかし、1) 温暖化対策とヒートアイランド対策が併記されているのみで、関連性が希薄であること、2) 技術支援に止まっており、問題解決のための研究（本来のプロジェクト研究）を目指していないことなど、プロジェクト研究としては弱いと考える。とくに気になったのが、温暖化対策は排出量推定を主体にしたもので、重要な部分はコンサルタントに委託すると理解した。コンサルタントにいつも頼るようでは、今後排出量削減の対策評価も進まないで、今後はセンターで排出量推定ができるだけの実力をつけるべきであろう。</p> <p>○温室効果ガスの排出量推計方法を確立する上で、その妥当性や精度について検証する必要があると思いますが、この点をどのようにするのがあまり明確ではありません。業者委託による推計値との比較でよいのでしょうか。</p>	<p>○この業務を立案した趣旨は、「行政部局だけでは対応しきれない課題に対して、技術支援機関としての確かなサポートを行うための必要情報を獲得し整理する」ということです。ご指摘のとおり、学術的な研究として構成されていない要素が多いのは事実ですが、この部門の萌芽となる業務と位置付けています。行政業務に直結する具体的結果が求められる地方公設試として、県及び市町村に対して行政実務をサポートするという役割が期待されていることから、このような形態のプロジェクトを実施することについてご理解をいただきたいと考えます。</p> <p>「排出量推計の重要部分を委託するのは如何か」との指摘ですが、委託によらずに自前で排出量推計を行うための検討を行う予定であり、コンサルに頼ることは考えていません。</p> <p>○ご指摘のとおり、排出量推計の妥当性と精度に関する検証は不可欠の要素であると考えます。排出量の数値を直接検証していくことは難しいと考えますので、間接的な検証法を考えていきたいと思えます。排出量は①活動量、②活動量あたりのエネルギー消費原単位、③排出係数により規定されますが、このうち、③は国が示すマニュアルの数値を使用することになるため、①及び②の見積もり方の妥当性を検証していきたいと思えます。</p>

平成18年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究

○1 温暖化効果ガスの排出量推計モデルを、市町村単位のみならず、企業あるいは事業所単位、家庭単位あるいは個人単位で作成するとよいと思う。そのようなモデルによって、各企業や各家庭における温暖化効果ガスの削減努力の目標設定や可視化が可能になると思う。関連して、市民協働型観察手法の採用は大切であり積極的に評価できる。

2 温暖化対策は、「個人の心がけ」で二酸化炭素などを削減する幅は限られている。「環境高負荷随伴的な構造化された選択肢」を変える必要がある。どのような構造化された選択肢を変えるべきか、という問題意識を持っていただきたい。

3 ヒートアイランド問題については、東京都など過密地域を有する他の自治体でも取組みが進んでいるので、他の自治体との情報交換を積極的に進めるべきである。

4 ヒートアイランド対策には、いろいろなものを思い浮かべることができるが、さまざまな対策のコスト・パフォーマンスを概略的に把握し、評価する手法を開発することが必要と思う。

○県民の関心の高いテーマであるが、どこまで環境科学センター職員が実施するかをよく検討するべきだと思う。また、施策立案向けなのか、県民の啓発向けなのか、目標を絞った方が良いのではないかと。

○1 排出量のマイクロ推計モデルについては、ご指摘にしたい、例えば環境家計簿など個別の家庭の取組が反映できるようなものを組み込んだ推計について、その可能性を検討していきたいと考えます。

2 ご指摘の問題は、排出量を規定する①活動量、②活動量あたりのエネルギー消費原単位、③排出係数の三つの要素のうち、②の改善を積極的に進めなければ達成できない課題であると考えます。具体的には、省エネ機器の普及推進、買い換え促進などの方策が上げられると思いますが、この問題を通じてこれらの施策を効果的に実施できるような技術的支援に繋がっていただきたいと考えます。

3 ご指摘にしたい、先行自治体との情報交換を積極的に行っていきます。

4 コストパフォーマンスの具体的な評価方法について情報を収集し、結果のとりまとめに活かす方向で検討を進めたいと考えます。

○当面、行政部局の施策立案に役立てることを意識して、検討を進めたいと考えます。その後、行政部局とタイアップして、啓発及び情報発信の方策について検討していく予定です。

平成18年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 地球温暖化及びヒートアイランド対策のための技術支援に関する調査研究

○課題の重要性は理解できるので、着実に研究を進めることが望まれます。

CO₂排出推計について：独自調査と業者委託との推計の条件（あるいは項目）をあらかじめ、ある程度統一しておく必要があるのではないかと思います。

ヒートアイランド現象の解析について：気温測定では、測定の条件（測定地点、位置等）によって、結果が大きく左右される可能性があるため、この点十分な検討が必要だと思われます。

○神奈川県という地域特性を生かす課題と考える。また、こうした事業では、住民にアピールする調査活動は有意義でもある。

簡便と思える温度測定においても、研究機関として精度を確保するための予備実験は必須と考える。

○排出量推計について、ご指摘のとおり、推計条件等について委託推計との整合を図る必要があると考えます。行政部局と連携し、調整を行う予定です。

ヒートアイランドについて、温度測定の精度については、先行自治体の情報等を参考にするとともに、予備的実験を行い、測定及び結果の改正方法を適切に設定し、観測を行いたいと考えます。

○温度測定の精度については、先行自治体の情報等を参考にするとともに、予備的実験を行い、測定及び結果の改正方法を適切に設定し、観測を行いたいと考えます。